

平成29年度 事業報告

社会福祉法人 恵和会
特別養護老人ホームさざんか園
デイサービスセンターさざんか園
在宅介護支援センターさざんか園
銚子市西部地域包括支援センター

1. 特別養護老人ホームさざんか園全体事業報告

平成29年4月の社会福祉法の改正により、社会福祉法人制度改革が本格実施され、施設における社会的役割が一層強調されてきました。今年度から新規の事業として、銚子市における福祉意識の高揚や地域の見守り体制の構築を目指し、銀行員や企業の職員を対象として、「認知症サポーター研修」等行ってきました。さらにその受講生の方々が、各地区の地域包括支援センターに気軽に相談できる仕組みづくりにも取り組んできました。まだまだ参加数は少ない状況ですが、さらに受講企業を増やし、研修内容も充実させ、銚子市における福祉の増進に努めていきます。

今年度も昨年度に引き続き人材の確保が一番の課題でした。特に1月から3月にかけては、夜勤業務に従事する職員が確保できず、一時的にベッド数の縮小を検討しました。福祉職に対する悪いイメージが先行し、募集を出しても反応が全くない状態が続いています。職員からの紹介制度等導入し、人を介しての採用を続けていきます。一方外国人介護職員の採用については、EPAに基づくベトナム人介護福祉士候補生2人が決定し、30年8月から勤務することになりました。彼女らの状況を見ながら、一定程度の外国人の採用も考えていきます。

特別養護老人ホームは、入所される方の重度化が進み、施設内での生活が単調になりつつあります。「その人らしい」生活を実現できるよう一層努力していきます。短期入所生活介護、通所介護については、それぞれの役割をしっかりと認識し、在宅生活を送る方々やその家族の支援をしてきました。これからの超高齢社会を見据え、一層の充実を図っていきます。居宅介護支援事業は、地域包括ケアの構築に向け、地域ケア会議等に積極的に参加してきました。介護支援専門員として地域社会に目を向けられるよう、ケアマネ業務も含め資質の向上に引き続き取り組んでいきます。2年目を迎えた地域包括支援センター事業は、高齢者の調査等を通じ地域に定着しつつあります。地域における認知度をさらに高め、超高齢社会に対応できる地域を構築していくとともに、多様な地域課題に対応できるよう、職員の資質向上に努めていきます。

銚子市における「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、当施設として出来得ることをさらに模索しこれからも続けていきます。